

房総のむらで感じる「昔の暮らし」

県立房総のむら

タイムスリップしたような感覚を体験

参加体験型の博物館「県立房総のむら」では、様々な「昔の暮らし」を感じることができる。

房総のむらの広大な敷地には、江戸時代後期から明治時代初期の房総の商家・武家屋敷・農家などを当時の景観や環境を含めて再現している。伝統的な技を用いた体験、生活歳時記の実演や展示などを実施しており、みる・きく・かぐ・あじわう・ふれるの五感を通して、房総地方に古くから伝わる文化への理解を深め、タイムスリップしたような感覚を体験することができる。

豊かな里山の自然が残る

館内の豊かな里山には、その季節ならではの植物が生い茂り、動物や昆虫が生息している。植物や昆虫の採取・園路以外への立ち入りは禁止されているが、足元に目をやれば足跡やフン、食痕などの動物の痕跡やめずらしい植物を見つけることもできる。

昔あそびを楽しもう

江戸時代の農家を再現した「下総の農家」では、めんこ、コマ、ベーゴマ、けん玉などの「昔あそび」を体験することができ、ボランティアによる指導を受けられる「コマ・ベーゴマ指南」（3月を除く月に1回）も行っている。また、売店では、コマ、ベーゴマ、けん玉、竹とんぼなどを販売しており、家に帰ってからも楽しめることが魅力の一つとなっている。

民家展示「昔の暮らし」

10月1日（土）から11月13日（日）までは、民家展示「昔の暮らし」を開催する。

私たちの生活は、ここ数十年で大きな変化を遂げた。特に、昭和30年代から40年代の高度経済成長期を境に、機械や電化製品の普及により、家事労働が大幅に省力化され、私たちの住まいや暮らしのスタイルは一変した。

房総のむらでは、一般の方々から多くの生活用品や写真資料の寄贈・提供を受けているが、今回は、寄贈していただいた資料の中から、高度経済成長前（昭和20年代から30年代）の生活用品と写真を中心に展示する。昔の建物や風景を感じることでできる房総のむらの商家、農家を活用し、「着る」・「食べる」・「住まう」・「遊ぶ」の四つの項目に分けて昔の暮らしを紹介する。

展示を通して、昔の風景を懐かしんだり、その頃の記憶を子や孫へつないでいったりするきっかけとしてほしい。



「昔あそび」の道具

令和4年度 企画展「関東 塩ものがたり」

9月30日（金）～11月27日（日）

県立関宿城博物館

江戸川が東京湾に注ぎこむ市川市行徳周辺は、江戸時代初期から塩の産地として幕府の保護を受け、関東随一の塩田が広がっていた。その後、海運の発達とともに瀬戸内産の塩が江戸にも大量に出回るようになると、行徳の塩は製法を改良して質の向上を図るとともに、販路を江戸川・利根川流域に広げ、関東内陸部を市場とするようになった。

今年の関宿城博物館の企画展では、海から川を通じて内陸に運ばれた、人が生きるために不可欠な「塩」をテーマに、関東地方の塩の生産と流通の歴史を紹介する。特に塩作り技術の変遷、行徳塩田の成立と興隆、瀬戸内産の塩との商業的攻防、舟運の果たした役割などを示す資料を展示し、千葉県歴史・文化・自然への関心を深めることを目的とする。

1 塩づくりのはじまり

縄文時代後期の関東地方では、土器を使った塩づくりが現在の霞ヶ浦沿岸で行われていた。縄文時代における関東の塩の生産と流通、また弥生時代以降の全国の製塩地の変遷について概観する。

2 塩田の登場と技術

平安時代末期頃には、塩浜（塩田）に海の水を繰り返し撒き、濃い塩水（鹹水）を取って煮詰める方法が全国的に行われるようになった。当初は人の手で海水を汲み上げる揚浜式であったが、江戸時代初期には潮の干満差を利用した入浜式が開発された。各地の塩浜による製塩技術について解説する。

3 江戸幕府のはじまりと行徳塩田の発展

家康が江戸に入り徳川幕府が開かれると、軍需物資でもある塩を確保するため、幕府は江戸に最も近い行徳塩田を保護下に置き、輸送路として小名木川を開削した。江戸幕府との関わりを通して行徳塩田の発展を解説する。

4 行徳塩田の塩づくり

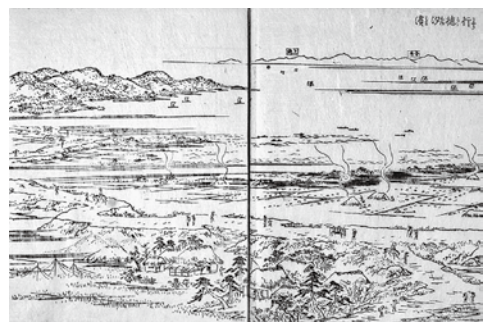
江戸時代から本格的に整備されるようになった行徳塩田について、自然地形の利用法や製塩の道具・技術などを紹介する。

5 江戸川・利根川 塩の道

当初は江戸の市場の大部分を占めていた行徳塩であったが、瀬戸内の十州塩が大量に移入し、その座を奪われていく。これに対して行徳塩は良質の古積塩を開発し、河川運送網で通ずる関東内陸農村部に販路を伸ばすこととなった。江戸時代中期以降の全国的な塩の流通とそれに対する行徳塩の動きを解説する。

6 塩の利用

海と川を通じて関東に流通した塩は、利根川流域に新しい産業、醤油醸造業の発展をもたらした。塩の利用とその展開を紹介する。



「行徳汐浜」(『江戸名所図会』7巻 当館蔵)

千葉県児童生徒・教職員科学作品展から全国展へ

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

県総合教育センターでは、毎年「千葉県児童生徒・教職員科学作品展」を実施し、特に優秀な作品を全国展に出品している。

令和3年度の全国展では、千葉県から出展された作品が、多くの賞に輝いたので紹介する。入選について、本誌では学校名、学年、氏名の紹介とするが、詳しくは各学校配付の千葉県児童生徒・教職員科学作品展「優秀作品選集」を御覧いただきたい。また、「優秀作品選集」は、県総合教育センターWebサイトからも閲覧できる。

★第65回日本学生科学賞

○内閣総理大臣賞

- ・「オシロイバナの種の研究～発芽能力を手に入れるのはいつか～」

君津市立周西南中学校 2年 赤羽 真帆

審査評 オシロイバナの種の成熟段階のどこで発芽能力を獲得するかを、丁寧な観察実験から明らかにしている力作である。

○読売新聞社賞

- ・「千葉県における50万年前以降のアサリの丸形指数の違い」

千葉県立木更津高等学校 2年 林 菜月

審査評 現生、化石のアサリの形態を多数のサンプルを基に解析しており、重要なデータが得られている。今後の研究に期待できる。

○入選3等

- ・成田市立玉造中学校 3年 畔野 汐梨
- ・千葉市立打瀬中学校 2年 神谷 琉仁

★第58回全国児童才能開発コンテスト科学部門

○中央審査会委員長賞

- ・「サカマキガイってすごい!」

千葉市立花園小学校 5年 谷 龍之介

審査評 身近な疑問から始め、独自の視点と目的に沿った実験、結果の分析と考察が非常に秀逸で素晴らしい作品である。

実験を進めながら、新たな知見についても深掘りする研究姿勢が素晴らしい。環境保全や医療につながる研究として、今後の発展に期待する。

○財団科学賞

- ・「波が描いたしま模様『砂紋』の研究」

千葉市立海浜打瀬小学校 4年 小松 薫生

- ・「『のぎ』の秘密を探れ!～米についた針、何のため?～」

千葉市立緑町小学校 6年 小橋 里菜

★第80回全日本学生児童発明くふう展

○入選

- ・千葉市立金沢小学校 6年 坂本 凜
- ・市川市立若宮小学校 3年 時田 華帆
- ・市川市立大和田小学校 5年 柿崎 理一
- ・松戸市立常盤平第三小学校 6年 林 克樹
- ・木更津市立請西小学校 6年 岩寄 佑真
- ・木更津市立富来田小学校 6年 小倉 理愛奈
- ・袖ヶ浦市立長浦小学校 5年 佐藤 香織
- ・千葉市立有吉中学校 3年 竜瀬 彩良
- ・流山市立東部中学校 3年 永嶋 結菜
- ・富津市立大佐和中学校 2年 松田 隼

令和4年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展一般公開は、10月15日(土)・16日(日)、県総合教育センターで行う予定である。子どもたちの科学論文や科学工夫作品、教職員の自作教具をぜひ御覧いただきたい。

※**審査評**は「優秀作品選集」より抜粋。

シリーズ 魅力発見！県立高校① 県教育庁企画管理部教育政策課 未来へつなぐ！統合後の君津高校の学び

県立君津高等学校 普通科
園芸科

県立君津高等学校は、令和3年度に県立上総高等学校と統合し、新たな「君津高等学校」としてスタートした。両校の伝統と学びを継承しつつ、ともに培ってきた特色ある教育活動をこれまで以上に発展させて、千葉県未来を担う人材の育成に取り組む。

1 統合後の学び

学びの継承

普通科

園芸科

- 英語コース
- 教員基礎コース

2 普通科の学び

普通科は、「英語コース」や「教員基礎コース」、また、文系・理系・難関大学対応の応用クラスなど、多くの学びができるようになっており、幅広い進路実現が可能となっている。

【英語コース】

英語が好きな生徒、英語4技能を向上したい生徒、海外留学に興味ある生徒に



向けたコースで、英語の授業を他コースより4時間多く設定している。ほぼ全ての英語の授業にALTが入り、個別にALTと会話する機会や英語でのスピーチ等の経験を多く積む

ことができる。卒業後は県内や都内の大学の外国語系学部にも多数進学している。

【教員基礎コース】

平成30年度に開設し、近隣教育機関・連携大学の協力を得ながら、将来教職を目指す生徒に対して体験活動や実習、講義をとおして教員としての素養を育成している。



小学校運動会スタッフや母校インターンシップ、課題研究など様々な体験や学習を経て、自信を持って進路選択することができる。千葉大学教育学部に毎年合格者を出すなど、卒業後の進路にも結び付いている。

3 園芸科の学び

野菜・草花の栽培を中心とした実践的な学習をとおして、園芸に関する知識と技術を身につけ、優しく逞しい主体的に行動できる産業人の育成を目指している。花いっ



ぱい運動を展開し、海ほたるPAや市役所の花壇を植栽するなど、生徒の自己肯定感を高めながら、地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。卒業後は地元農業系企業への就職だけでなく、農業大学校や農業系の大学にも毎年進学している。

シリーズ 魅力発見！県立高校② 県教育庁企画管理部教育政策課 「福祉コース」の魅力

県立犢橋高等学校 普通科 福祉コース

県立犢橋高等学校は、昭和60年に創立された、今年38周年を迎える全日制普通科の高校である。

「創造」「諧和」「自律」を校訓とし、「生徒一人一人を大切にし、社会の一員として主体的に生きることを目指す」を重点教育目標に掲げ、社会に貢献できる人材を育成している。県教育委員会が平成30年に策定した「県立学校改革推進プラン第4次実施プログラム」に基づき、令和2年度に千葉市内の公立高校初の福祉コースが設置された。

福祉コースでは、2・3学年の2年間で対人支援に必要な法制度や介護技術など、福祉の基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。子どもからお年寄りまで、すべての年代の方へ支援ができるよう、福祉について幅広く学ぶことにより、高校卒業と同時に「介護職員初任者研修課程修了」を取得し、資格を活かした就職や、より高い資格の取得に向けた福祉系大学・専門学校への進学を目指す。

2学年では「社会福祉基礎」（2単位）と「介護福祉基礎」（2単位）の2科目を設置している。本校の福祉担当教諭の授業だけではなく、近隣の大学の先生が来校し、授業を実施していただく機会がある。また、福祉施設とリモートで繋ぎ、施設職員や入所しているご利用者様との交流、千葉県の健康福祉部の事業「千葉県介護の未来案内人」を活用するなど、生徒の興味・関心を引き出す工夫をし、基本的な知識や技術を学んでいる。



令和3年度「千葉県介護の未来案内人」

3学年では「生活支援技術」（2単位）と「介護総合演習」（4単位）の2科目を設置している。2学年で身につけた知識や技術を活用し、事例検討などにより発展的な内容に取り組んでいる。毎週、社会福祉法人八千代美香会の介護職員の方が3名来校し、現場で提供されている実践的な介護技術を生徒に指導する授業は、特に魅力的な授業の一つである。



3学年 介護技術の授業の様子

このように、福祉コースでは様々な外部機関と連携し、対人支援の魅力ややりがいを生徒に伝えている。

シリーズ 魅力発見！県立高校③ 県教育庁企画管理部教育政策課 普通科でも学べる工業の基本

県立天羽高等学校 普通科 工業基礎コース
県立姉崎高等学校 普通科 ものづくりコース

1 はじめに

県教育委員会では、「県立学校改革推進プラン・第4次実施プログラム」に基づき、令和2年度から天羽高校と姉崎高校の普通科にそれぞれ工業に関するコースを設置した。今年度はコース1期生がそれぞれ3年生となり、地元工業系企業への就職や、工業系の大学・専門学校への進学など、学びを生かした進路実現に向け、充実した取組を行っている。

2 天羽高校の取組

工業に興味・関心を持ち、将来、工業系の企業への就職を視野に入れた生徒が、基礎的な資質能力を身に付けるとともに、職業意識を育むため、天羽高校に『工業基礎コース』を設置した。設置にあたっては、工業実習室を整備し、溶接、金属加工等の機械実習や電気計測、電子工作等の電気実習を可能とした。

1学年では、工業系企業への就職を希望する生徒が早くから準備に取組めるよう、「総合的な探究の時間」においてキャリア教育を行い、地元企業等について理解を深めている。

2学年では、「工業数理基礎」で工業に必要な数値処理などについて学び、「工業技術基礎」では、安全教育に加えて機器の取り扱い方についても幅広く学ぶ。

3学年では、「生産システム技術」「製図」で専門的な知識を深め、「課題研究」では、身に付けた知識や技術を活用して探究的な学習に取り組んでいる。

また、地元自治体や関係機関、地元企業との連携によるインターンシップ等も実施し、職業観・勤労観を養っていく予定である。



3 姉崎高校の取組

様々な教育資源を活用しながら、将来、ものづくり企業への就職を目指すための知識・技術、実践力、創造力を備えた人材を育成するため、姉崎高校に『ものづくりコース』を設置した。設置にあたっては、工業実習室を整備し、アングル加工機・ボール盤などの加工機械や溶接の設備を利用した実習を可能とした。

1学年では、生徒の将来展望を持ったコース選択に資するため、「産業社会と人間」を全員が履修し、ものづくりに関する基礎的な科目を学ぶ。

2学年では、「生産システム技術」で工業に関する基本的な知識を身に付け、「工業技術基礎」において安全教育や測定機器の基本的な使用方法を学ぶとともに、地元工業系企業から派遣された講師による授業も受けている。

3年生では、2年生に引き続き、「生産システム技術」で知識や技術を磨き、「課題研究」では、外部講師による指導を受けながら探究的な学習を実践している。